

関西国際大学 教育DX推進計画:概要

1-2. 教育DX推進計画の概要

● 科目「評価と実践 I・II」

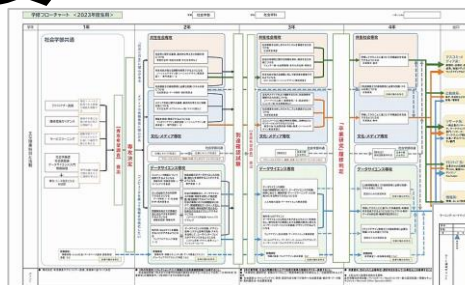
- ① 対象学科・学年
全学科全学年（2年ごとに1単位認定）
- ② 開講形態
学科の学年ごとに開講
- ③ 授業設計(学習目標・評価方法)
シラバスをご参照
- ④ 授業で行う主な学習活動
リフレクションワークシート作成(ふりかえり)
→個別面談→eポートフォリオ入力作業
・ベンチマークチェック→エビデンス管理
・目標管理(成長確認)→目標・計画修正
学修成果サマリー作成
- ⑤ 利用するICTツール
LMS + eポートフォリオ(WebClass)
※学生はノートPC必携 (BYOD)

学内外での学習活動

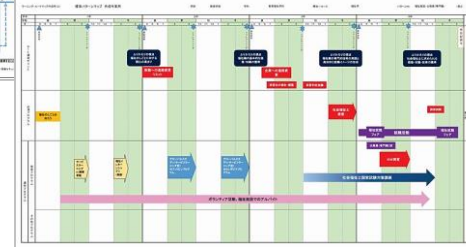


学期ごとに
リフレクションワーク
・ベンチマークチェック
・成長確認(目標設定・修正)など

eポートフォリオ



学修フローチャート




ラーニングルートマップ

学修成果サマリー

関西国際大学 教育DX推進計画:概要

1-3. 教育DX推進計画の概要

(現行) (2021年度シラバスより転載)		
	評価と実践Ⅰ	評価と実践Ⅱ
学習目標	<ol style="list-style-type: none">1. 本学の教育目標に掲げる力・資質の理解2. 評価方法や能力観に関する概念の知識獲得3. 主体的に目標をもち、計画を立てて実行する力の涵養4. PDCA (Plan 計画 Do 実行 チェック確認 Act 改善) サイクルにもとづく自己点検能力の向上5. 自分のことを客観的に説明する力の向上	<ol style="list-style-type: none">1. 本学の教育目標に掲げる力・資質の理解2. 評価方法や能力観に関する概念の知識獲得3. 主体的に目標をもち、計画を立てて実行する力の涵養4. PDCA (Plan 計画 Do 実行 チェック確認 Act 改善) サイクルにもとづく自己点検能力の向上5. 自分のことを客観的に説明する力の向上
		
(修正後)		
学習目標	<ol style="list-style-type: none">1. <u>本学の教育目標に掲げる力・資質</u>について説明できる2. <u>評価方法や能力観</u>について説明できる3. <u>PDCA (Plan 計画 Do 実行 チェック確認 Act 改善) サイクル</u>について説明できる4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に<u>適用</u>することができる5. 客観的に<u>自分の現状</u>を記述することができる	<ol style="list-style-type: none">1. <u>自分の学習状況</u>を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる2. PDCA に基づいて<u>自分の現状と「出口」までの工程</u>を自己点検することができる3. <u>エビデンスに基づいた自己アピール</u>を表現(記述とプレゼンテーション)することができる

関西国際大学 教育DX推進計画:概要

1-4. 教育DX推進計画の概要

A. 学生が自らの進捗・理解度に適した学習ができるようにLMS(Learning Management System)を強化する必要がある。

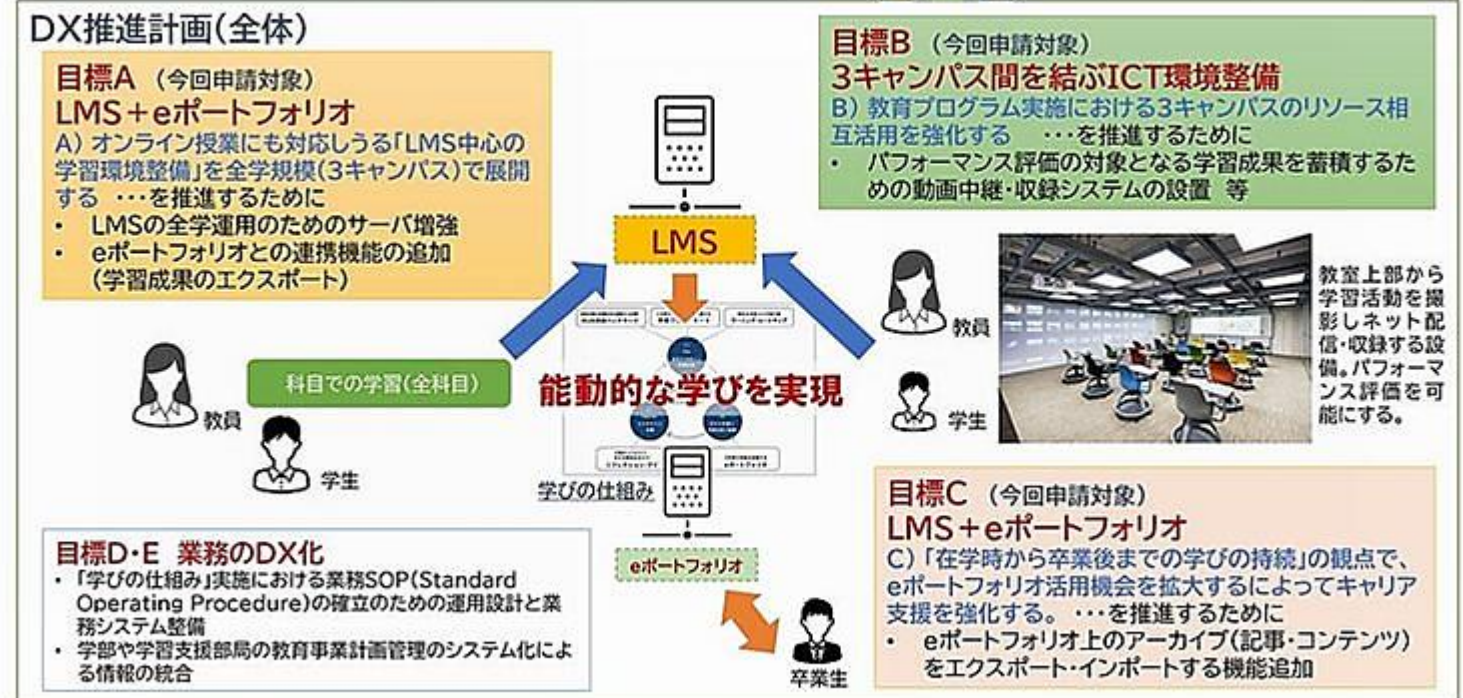
B. 基盤教育など3キャンパス共通の科目については、複数キャンパスでの双方向性を確保した授業が担保されておらず、各学部の特徴ある科目については異なるキャンパスの学生でも履修できるようにする必要がある。

C. 学修成果を学生自身がより明確に把握できるように、授業内容、授業方法の工夫、ルーブリック評価を強化し、成果をeポートフォリオに自動的に蓄積できるようにすることにより、学生自身が自らの課題を発見しやすくする必要がある。

D. 授業における教育方法や課題設定について全教員が共有でき、学修成果の状況が確認できるようにLMSを改善しなければならない。

E. 学生の学修成果に加え、さまざまな部局で収集・蓄積している情報を教員や他部局が活用できるように、情報セキュリティに考慮しつつ、統合・活用していく必要がある。

参考資料2:DX推進計画/今回申請する取組(目標A・B・C)



注) 「SOP(Standard Operation Procedure)」は:教員のための標準運用手順を指す。